

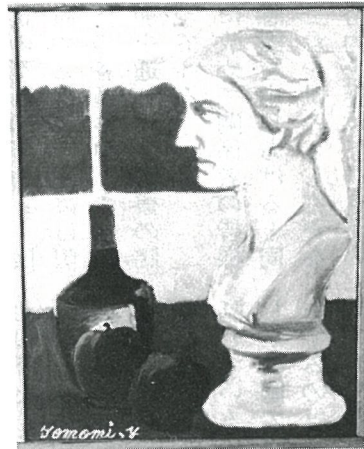


『馬の頭(模写)』



3年2組
大木 さとみさん

※最後の仕上げが難しく、また馬の首に巻いてある布をぬるのが大変でした。

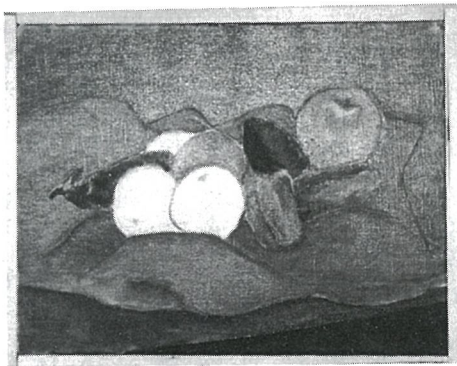


『静物画』



3年1組
吉羽 知美さん

※ビーナスのような色の白い物を描いて、色をぬることが、こんなに難しいとは思いませんでした。



『静物画』



3年1組
鈴木 晃子さん

※顔の明るいところや暗いところの影のぬりかたが難しかったです。周りの色を少し暗くするのも難しかったです。



『セザンヌ夫人(模写)』



3年1組
小川 勝枝さん

※果物や野菜に色をぬるのが難しく、また布の柔らかい感じを出すのに苦労しました。

ひかり俳壇

行く秋や看とりに慣れて六とせ経ぬ

椎名 静子 (二一又)

去り行く秋に託した作者の感懐が、さわやかな共感を呼ぶ

冬葱の畝盛り上げて出荷待つ

鈴木とし子 (宝米)

秋冬ネギの出荷を控え土に生きる者の心情が伝わってくる。

行秋の思ひ出多き宿にあり

秋山 一泉 (野栄町)

秋は人間を内省的にする。旅装を解いだ宿に懐旧の情一入。

かたくなに余生を菊に没頭す

大木静波子 (篠本二区)

齢い八十六才。なお嬰孺として菊作りと俳句に勤しむ作者

行秋や本を枕に眠りたし

土屋 義昭 (虫生)

発想から言って、自由律傾向の強い作品。浪漫の香も漂よぶ。

短評 椎名しげる